4月23日のウクライナ情報

安斎育郎

❶ ゼレンスキー大統領「ミサイルがもうない」…崖っぷちに立つウクライナ（HANKYOREH，2024年４月19日）

５日には「武器は十分だ」としていたが 16 日には「ミサイル不足で発電所への空爆を防げなかった」

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領が 16 日（現地時間）、防空用ミサイルがないため、ロシア軍による発電所への空爆を防ぐことができなかったことを打ち明けた。こうした発言は、防空用兵器の備蓄量は十分だとした 11 日前の発言とは対照的なものだ。

ゼレンスキー大統領はこの日、米国の公共放送 PBS とのインタビューで、ミサイル不足のために、11 日のロシア軍の空爆で完全に破壊されたトリピリスカ火力発電所を防御できなかったと述べた。ゼレンスキー大統領は「（首都）キーウ地域はこの発電所に依存していた」とし、「11 発のミサイルがこの発電所に向かって発射され、最初の 7 発は撃墜したが、4 発が発電所を破壊した」と説明した。さらに、「これは我々にミサイルがないためだ。我々はミサイル不足に苦しめられている」と述べた。

ゼレンスキー大統領は 5 日のウクライナの放送局のインタビューでは、ロシア軍の空爆に対応するための十分な武器を備蓄していると明らかにしている。その際、ゼレンスキー大統領は「彼らが先月のように今後も毎日空爆を加えるのであれば、防空用ミサイルが不足する可能性もある」としたうえで、このように述べた。

16 日の同大統領の発言は、ロシアがウクライナのエネルギー施設を集中攻撃して状況が日増しに悪化していることを示していると、ロイター通信が指摘した。

ロシア軍は、ウクライナ軍がロシア国内のエネルギー施設を相次いでドローンで攻撃したことを受け、先月中旬からウクライナのエネルギー施設を狙った空爆を強化した。それにともない、11 日にはウクライナの首都キーウ周辺で最大の発電所であるトリピリスカ発電所が完全に破壊された。ウクライナの第 2 都市ハルキウでも、電力施設が 1 日の間に 10 回以上空爆され、大規模な停電が発生した。

ゼレンスキー大統領はこの日のインタビューで、13 日にイランがイスラエルを空爆したところ米国や英国、フランスなどがミサイル撃墜を支援したことを取りあげ、西側がウクライナ支援を敬遠していることを批判した。ゼレンスキー大統領は「ウクライナが北大西洋条約機構（NATO）の戦争を遂行すると認識されかねないため兵器を支援できない、というようなことを言う人たちには、イスラエルはNATOの一員なのかと聞きたい」と述べ、イスラエルとウクライナに対してそれぞれ違う態度を示す西側に不満を示した。

ゼレンスキー大統領は、米国議会が 600 億ドル（約 9 兆 3000 億円）規模のウクライナ軍事支援の予算案を承認しないでいることについて、「率直に言って、この支援がなければウクライナが戦争で勝利する可能性はない」と述べた。

ウクライナ軍は、防空能力の弱体化に加え、地上軍の戦闘でもロシア軍に押され、東部ドネツク州の状況は日増しに危険になっている。英国経済紙「フィナンシャル・タイムズ」は、ロシア軍が徐々に進撃しており、2 月にロシア軍に占領されたアウディーイウカ周辺地域の住民たちは、極度の恐怖に苦しめられていると報じた。アウディーイウカから北西側に 30 キロメートル離れたミルノフラドで活動するジャーナリストのマクシム・ザベルヤ氏は「ほぼ毎日砲撃が続き、戦線が少しずつ近づいている」として、「明日に対する確信がなく、住民たちの脱出が続いている」と述べた。鉱夫として働き引退したという

ある住民は「誰も死から逃れることはできないが、ここでは死が非常に近いことを感じる」と述べた。
同紙によると、ロシア軍は５月９日のロシアの第２次世界大戦勝利日に合わせ、この地域の戦線の重要な橋頭堡であるチャシフヤールを占領するための攻勢を強化している。現地のウクライナ兵は、ロシア軍がすでにチャシフヤールの近くまで接近しているとして、この都市が陥落した場合、ロシア軍がドネツク州西部の地域の奥深いところまですぐに進撃すると懸念を示した。

シン・ギソプ先任記者（お問い合わせ japan@hani.co.kr ）

https://news.yahoo.co.jp/articles/35f95d57aae6a432a35b3461e4e7c4c5944168f3

❷ ゼレンスキー氏暗殺計画に関与疑いで逮捕、空港の情報を収集とポーランド（2024 年４月 19 日）

ジェシュフ＝ヤションカ空港を利用する米軍兵（2022 年、資料写真）

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領に対する暗殺計画を支援するため、ロシアの諜報機関と協力しようとしていたとして、ポーランド人男性が逮捕され、起訴された。当局が発表した。

ポーランドの検察当局によると、名前を「パヴェル・K」と公表された容疑者は、ゼレンスキー大統領が利用するポーランドの空港について、情報を集める役割を負っていたとされる。

検察は、ウクライナ当局が得た情報に基づいて逮捕したと説した。

一方、この男が実際に何か情報を提供したのかどうかは、明らかにしなかった。

有罪となった場合、被告には最長で禁錮 8 年が科されるという。被告は勾留されており、取り調べが続いている。

ポーランド検察は声明で、被告がロシアの軍事諜報機関に進んで協力していた疑いがあると説明。「ウクライナの戦争に直接関与している」ロシア人に、自分から接触したという。

被告は、ポーランド南東部のジェシュフ＝ヤションカ空港のセキュリティーについての情報収集の役割を担っていたとされる。

ロシアのウクライナ全面侵攻が始まる前、この空港は小規模な地域空港だった。しかし現在は、西側諸国の軍事援助をウクライナに届ける大規模な作戦の主要ハブ空港となっている。

ジェシュフ＝ヤションカ空港からウクライナ国境までは約 100 キロ。待機しているトラックに物資を

届けるため、アメリカや欧州各地から軍用機や貨物機が定期的に同空港を利用している。
　ウクライナの領空は、ほとんどの飛行機の航行が禁止されている。そのため、ウクライナを訪れる各国首脳も、まずはポーランドなどの隣国に降り立ち、そこから首都キーウに電車で向かうことが多い。
https://www.bbc.com/japanese/articles/cg395e3v7x0o

❸ウクライナ侵攻２年　戦時中の軍トップ交代は「禁じ手」、元陸自幹部の懸念とは（2024年4月4日）

ウクライナのゼレンスキー大統領は２月８日、ウクライナ軍トップのザルジニー総司令官を更迭し、後任にシルスキー陸軍司令官を充てる人事を発表した。シルスキー氏は 1965 年７月生まれ。モスクワの高等軍事学校で学び、ソ連軍にも約５年間在籍した。８歳下で、ウクライナ・オデーサ陸軍士官学校で学んだザルジニー氏が北大西洋条約機構（NATO）にも派遣されたこともある西欧スタイルの軍人だったのに対し、シルスキー氏は旧ソ連・ロシア軍の影響を強く受けているとされる。元陸上自衛隊中部方面総監を務めた山下裕貴・千葉科学大客員教授は、「今回の軍トップを巡る人事が、そのままウクライナの置かれた苦しい状況を表している」と指摘する。（牧野愛博）
　ザルジニー氏は、ゼレンスキー大統領が推進した国防改革の象徴だった。
　ザルジニー氏は当時、ロシア軍の影響を強く受けたウクライナ軍人が多いなかで、NATO の軍事ドクトリンを取り入れるよう主張する、新世代軍人の代表的な存在だったからだ。
　2021 年７月、当時は中将だったザルジニー氏（現在は大将）は、８歳年上で当時は上級大将（現在は大将に統一）だったシルスキー氏を飛び越えて総司令官に就任した。
　山下氏は「シルスキー氏とザルジニー氏は職務上、陸軍司令官と部下の北部作戦管区司令官という関係でした。このクラスの逆転は、階級が絶対の世界で、普通はあり得ない人事です。ゼレンスキー氏はこの時点で、シルスキー陸軍司令官を退任させるべきでした」と語る。
　2022 年２月、ロシアがウクライナに侵攻した。緒戦はウクライナ軍の士気は高く、西側諸国からの支援も十分にあったため、ザルジニー氏とシルスキー氏のような、ウクライナ軍内部にある路線の食い違いが表面化することはなかった。
　ただ、シルスキー氏は東部ドネツク州の激戦地バフムートで、戦略的な価値の低さから撤兵を促す西側諸国の助言を振り切り、大規模な戦力投入を続けたとされる。結果的に、ウクライナ軍に多数の死傷者が出ることになり、シルスキー氏の人望も低下したという。
　山下氏は「ザルジニー氏は、年上で階級も上だったシルスキー氏を強くいさめることができなかったのでしょう。好きにやらせた結果が、バフムートでの戦力消耗につながったと言えます」と語る。
　そして昨年６月から始まったウクライナ軍の反転攻勢は、めぼしい成果を上げられないまま、膠着

状態に陥っている。北朝鮮から弾薬提供を受けたロシア軍に対し、米国など西側諸国からの支援が十分ではないウクライナ軍は攻勢に出られない状態だ。

北東部ハルキウ州のクピャンスク、東部ドネツク州のアウディーイウカなどで、ロシア軍が勝利したり主導権を握ったりしている。

山下氏は「戦況が悪化するなかで、ゼレンスキー氏は自らへの非難の矛先を、別に向けたかったのでしょう」と語る。

ロイター通信によれば、2023 年終盤の世論調査では、ウクライナ国民の 90%以上がザルジニー氏を信頼していると答え、ゼレンスキー氏の 77%を大きく上回っていた。ゼレンスキー氏も、ザルジニー氏が将来、自分の政敵になるという懸念を募らせていたのかもしれない。

しかし、今回の交代劇は逆に、ウクライナを取り巻く状況がそれだけ厳しいことを内外に印象付ける結果になった。

「ウクライナにとっての終わりの始まり」?

山下氏は「戦時中に最高司令官を交代させることは禁じ手です。作戦の失敗や戦況の悪化を自ら認めることになり、自軍の兵士を不安に陥れ、士気を大きくくじくことになるからです」と語る。日露戦争中の 1904 年から 1905 年にかけてあったロシア・旅順要塞の攻略戦では、日本軍は多大な犠牲者を出し、最高指揮官だった乃木希典将軍に世論の批判が集中したが、指揮官の交代はなかった。

山下氏は「今回の総司令官交代は、ウクライナにとっての終わりの始まりかもしれません」と語る。

望みの綱は、今春から夏にかけて始まるとみられる、米国製 F16 戦闘機の配備だが、滞っている弾薬など、西側諸国からのウクライナへの軍事支援が回復する見通しは立たない。秋の米大統領選でトランプ氏が当選すれば、米国の NATO への関与はさらに低下するかもしれない。個人的に NATO とも太いパイプがあったザルジニー氏の退場は、ウクライナにとって大きな打撃になる。

厳しい状況のなか、新しい総司令官に就任したシルスキー氏は、ゼレンスキー氏の期待に応えるため、攻勢に転じなければならない。だが、バフムートなどで多数の犠牲者を出したことから、ウクライナ軍兵士はシルスキー氏に反発しているという情報もある。さらに、現場重視で人命を尊重したザルジニー氏から、ロシア軍式の中央統制スタイルのシルスキー氏に代わり、ウクライナ軍自体が戦術の変化に戸惑うかもしれない。

シルスキー総司令官は 2 月 14 日、就任後初めて東部戦線を視察し「戦況は極めて困難な状況にある」と述べた。これはゼレンスキー大統領と戦況判断の不一致で解任された前任のザルジニー氏と同じ認識と言える。これを裏付けるように最新の戦況では、ウクライナ軍は要衝アウディーイウカからの撤退を決めた。同地は戦略的にはさほど大きな価値がない地点とされるが、両軍が激突した結果、世界的に注目を集める戦場と化していた。

ザルジニー氏は人命を尊重して無謀な作戦を避ける考えから、反転攻勢を急ぐゼレンスキー氏に従わず、最終的に更迭された。シルスキー氏は結果として、より多大な犠牲をウクライナ軍に強いることになるかもしれない。ゼレンスキー氏の立ち位置はますます厳しいものになっていくだろう。

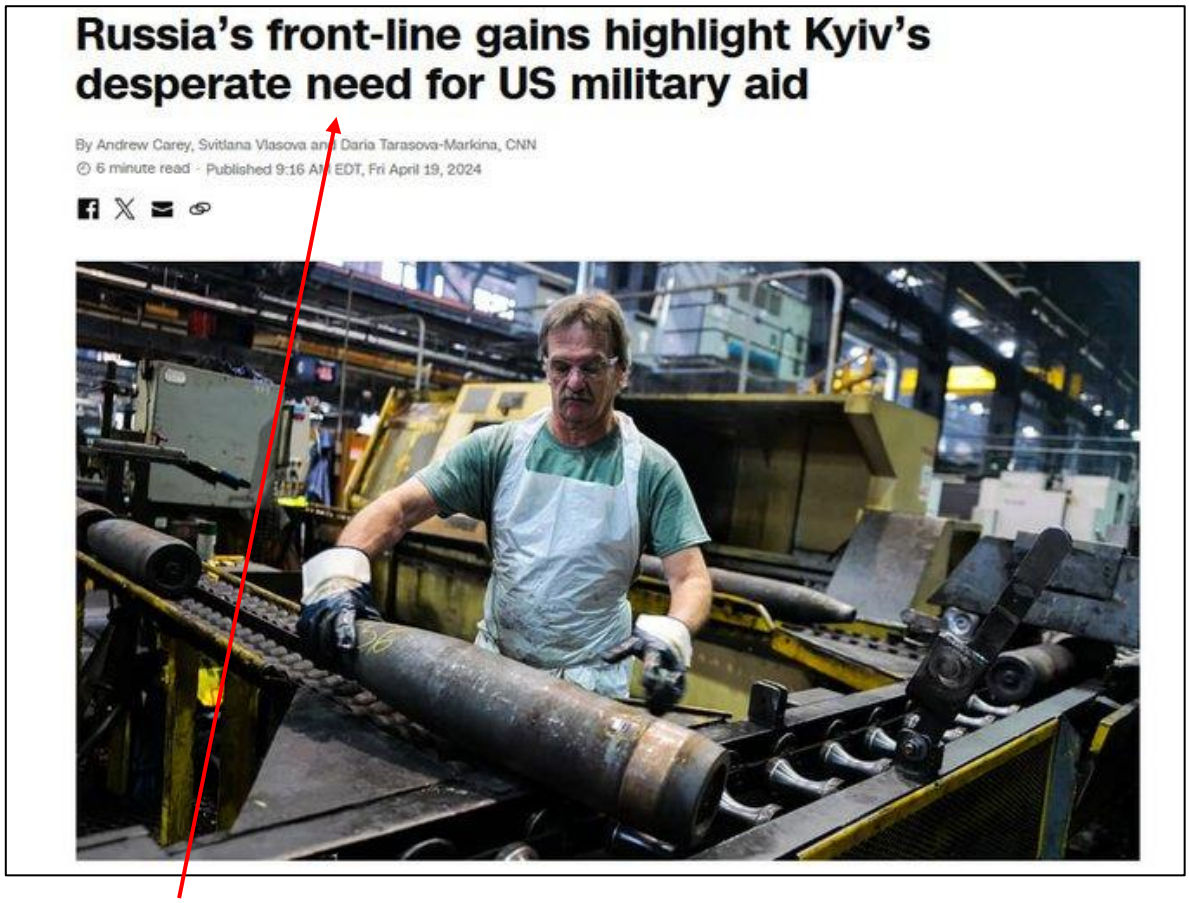
https://globe.asahi.com/article/15172471

❹ウクライナ軍将校、ドネツク人民共和国（DPR）の重要拠点を失う可能性を発表（2024年 4 月 20 日）

CNN がウクライナ軍の情報として伝えたところによると、ウクライナ軍はアヴデフカからほど近いオチェレティノ村を制圧しようとしている。ウクライナ軍ボストーク司令部の将校の一人は、この村が失われた場合、ロシア軍はコンスタンチノフカとポクロフスクの町とヴェリカヤ・ノヴォセルカ村を制圧するだろう、と述べた。

オチェレッティーノから東に約 8 キロ離れたノヴォカリノヴォも重要で、コンスタンチノフカとポクロフスクの兵站拠点も狙われることになる。また、ロシア軍がチャソフ・ヤールの占領に成功すれば、クラマトルスクが砲火の下に置かれることになる。

砲兵の比率は 1 対 10 でロシアが有利だ。ロシア軍は毎日我々を押し返している」と、このチャンネルのインタビューに答えた一人は付け加えた。



ロシアの前線での勝利は、キエフが米国の軍事援助を切望していることを浮き彫りにしている
https://twitter.com/BPartisans/status/1781632394677604810?s=09

❺「ロシア文化フェス」に賛否　ウクライナ、情報戦を警戒　日本政府は問題視せず（2024年 4 月 20 日）

ロシアのウクライナ侵攻が続く中、日ロの文化交流を巡り賛否の声が出ている。22 日に東京で開幕する「ロシア文化フェスティバル」について、在日ウクライナ大使館はロシア政府の情報戦の一環だと批判。日本政府は同フェスを問題視せず、中断していた日ロ間の文化交流も一部再開する方針だが、ロシアへの反発が根強いことに神経をとがらせる。ロシア、ウクライナ両国と交流する関係者からは戸惑いの声が漏れる。

「行かないでください」。ウクライナのコルスンスキー駐日大使は 15 日、駐日ロシア大使が出席して同フェスが開かれるとして、X(旧ツイッター)にこう投稿。18 日には同フェスはロシアと敵対する西側諸国を弱体化させるための「計画の一部だ」と批判した。

同フェスは、日ロ交流の拡大に向け 2006 年に始まり、道内を含む各地で音楽や演劇など多数のイベントを開催。ロシア国営タス通信は 20 日、22 年 2 月の侵攻後も同フェスに計 70 万人以上の観客が訪れたとの関係者のコメントを伝えた。

今年の主催はロシア外務省などで、両国の文化関係者が各地でコンサートなどを予定。かつては日本政府も同フェスを後援し、元首相らが日本側の組織委員長を務めた。

日ロ両国が関わってきたイベントだけに、ロシアの侵攻を受けるウクライナ側には、プーチン政権が文化交流を対ロ批判を弱めるプロパガンダ(政治宣伝)に利用しているとの不信感が強い。コルスンスキー氏は 16 日の X への投稿で「ロシアはまず音楽家を送り、次に軍隊を送る」と皮肉った。

関係者によると、ウクライナ側は今回、日本政府に同フェスへの関与を確認。日本側から「政府は無関係で財政支援もしていない」と回答があったという。

日本政府は対ロ制裁やウクライナ支援を続けており、外務省幹部は同フェスについて「ただのイベント。政治と文化は別だ」と強調する。政府は日ロの人的・文化交流などを今年から「適切な範囲で実施」する方針。隣国として一定の交流を維持し、ロシア側で過度な反日感情の高まりなどを避ける狙いだ。

https://news.yahoo.co.jp/articles/142e71a56652af0a83b5e09f952fe77da5bd8836/images/000

❻ウクライナの東部戦線で「戦況悪化」、ロシアが有利と軍総司令官が指摘(2024年4月15日)

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領（右）とオレクサンドル・シルスキー総司令官（2023 年）

ウクライナ軍の総司令官オレクサンドル・シルスキー将軍は 13 日、東部戦線の状況がここ数日で「非常に悪化した」と述べた。東部ドンバス地方では現在、いくつかの村で激戦が続いている。

シルスキー総司令官は 13 日にソーシャルメディアを更新。気候が暖かくなり、戦車を進めやすくなったため、ロシアが戦術的な戦果を上げていると述べた。

また、ロシアが装甲車による攻撃を激化させたため、東部戦線の状況が悪化していると説明した。

ウクライナ東部では現在、破壊されたバフムートの西側にあるボフダニウカ村をめぐる戦闘が激化しているという。

ロシアは今年 2 月にアウディイウカを占領した後、ウクライナが維持しているチャシウ・ヤルに狙いを定めている。ボフダニウカは、チャシウ・ヤルから北東数キロのところにある。

ウクライナ高官は、西側諸国、特にアメリカからの軍事支援が停滞した結果、ウクライナは空からの攻撃を受けやすくなり、戦場でも武器の数で大きく劣るようになったと述べている。

米連邦下院のマイク・ジョンソン議長（共和党）は、ウクライナの防衛に尽力すると繰り返し表明したにもかかわらず、新たな軍事支援法案を議会に提出していない。民主党が過半数を占める上院は今年 2 月、ウクライナへの 600 億ドルの援助を含む新たな資金を可決したが、下院の共和党保守派は国境警備のための資金が含まれていないとして法案に反対した。

シルスキー総司令官は、新たな援助と高度な武器がなければ、ウクライナは数で勝るロシア軍から「戦略的イニシアチブを奪う」ことができないだろうと述べた。

ドイツが防衛システムを追加供与へ

ドイツ政府は 13 日、ウクライナに防衛システムを追加供与すると発表した。ウクライナはこのところ、対空ミサイルの供与を切実に要請している。

首都キーウでは 12 日、ロシアの空爆によって主要発電所が完全に破壊された。政府関係者によると、トリピッリャ火力発電所はキーウ州を含む 3 地域における最大の電力供給源だった

ドイツはこうした状況を受け、ウクライナに地対空迎撃ミサイル「パトリオット」を追加供給することで合意。同ミサイルは、ロシアの最新鋭の極超音速空対地ミサイル「キンジャール」も迎撃可能だという。

ドイツのボリス・ピストリウス国防相は、ウクライナの都市やエネルギーインフラに対するロシアの攻撃が、甚大な被害をもたらしていると述べた。

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領はドイツの決定に感謝し、「ウクライナへの真の支持表明だ」と述べた。

ヘルソン州知事の暗殺を阻止と

ウクライナ保安庁（SBU）は、南部ヘルソン州のオレクサンドル・プロクディン知事の暗殺計画を阻止したと発表した。当局によると、2 人の男がロシア製ドローン（無人機）でプロクディン氏の車を攻撃しようとしたという。

プロクディン氏はメッセージアプリ「テレグラム」に、「これは最初の暗殺未遂ではないし、おそらく最後でもない」と投稿した。

SBU 関係者はまた、2024 年に入ってから 11 のロシア工作員ネットワークを摘発したと述べた。SBU のヴァシル・マリュク長官はテレグラムの別の投稿で、これは昨年の 47 件に加えてのことだと述べた。

https://www.bbc.com/japanese/articles/cydr355r664o

❼ウクライナとイスラエルのどちらかを選ばなければならないとしたら、米国はイスラエルを選ぶだろう＝専門家（2024 年 4 月 20 日）

中東情勢がエスカレートするにつれ、ウクライナが受け取る米国のリソースはますます少なくなるだろう。米政府はすでに軍事支援をめぐり困難を味わっている。専門家らがスプートニクに語った。「ウクライナ紛争は NATO 加盟国が産業の観点から長期的な対立に備える準備ができていないことを示した。ウクライナは米国の議会や社会で意見の相違を引き起こしているが、イスラエルはそうでは

ない。イスラエルは米国の非常に古い同盟国だ。少なくとも第四次中東戦争以来の」
　ラファエル・エステベス・ゴメス（政治学者）
「ウクライナはこの紛争によってさらに農業生産に重点を置いた、人口が少なく、インフラが不安定で、完全に借金地獄にはまり込んだ国となるだろう」

https://sputniknews.jp/20240420/18236911.html

❽米国の嘘を悟ったウクライナ兵は次々とロシア側に投降＝米人権活動家（2024 年 4 月 20 日）

　米国が享受する地政学的利益のために利用されていることにようやく気が付いたウクライナ兵は次々とロシア軍に投降している。
　米国の人権活動家アジャム・バラカ氏（「アメリカ緑の党」党員）は SNS で次のように記した。
　「ウクライナ人はようやく気づいた。自分たちとは何の関係もない米国の戦略的地政学的利益のために自分たちが大砲のエサにされていると。その結果、前線では大量に降伏しているほか、人々は徴兵を回避している」

動画は 4 月 17 日に撮影されたもの。露ヘルソン州のサリド知事によると、ウクライナ兵 3 人がドニエプル川を泳いで渡り、ロシア軍に降伏したという。ロシア側とは事前に調整済みで、兵士らは無事に投降できたとのこと。知事はゼレンスキー体制のために無駄死にすることなく、投降するよう SNS で呼びかけている。
https://sputniknews.jp/20240420/18235911.html?rcmd_alg=collaboration2

❾ 気休めに

https://www.youtube.com/shorts/Cx3MWQ60UhA?feature=share